

若者の視点でまちの魅力を発信

市内の大学生を「あつぎにぎわいアドベンチャー隊」に任命



これまでに延べ420人の学生が活動

市内5大学の学生で組織する「あつぎにぎわいアドベンチャー隊」の任命式を6月に開催しました。21人のメンバーがイベントの企画・運営やSNSでの魅力発信などでまちの活性化に取り組みます。

アドベンチャー隊は、市内の商店会関係者などでつくる「まちなか活性化プロジェクト」の発案で毎年メンバーを入れ替えながら活動。昨年度は市内の店舗や景色、話題のスポットをSNSで発信した他、クイズラリーなどを企画・運営しました。

参加して3年目になる岩淵広虎さん（東京工芸大学4年）は「今年アドベンチャー隊が新たに発案したイベントを開催したい」と力を込めました。

犯罪や暴力のない明るいまちへ

社会を明るくする運動・暴力追放キャンペーンの啓発活動を実施

本厚木駅周辺で市や厚木警察署、厚木地区保護司会、防犯協会などのメンバーら250人が啓発活動を実施しました。

活動は、防犯や非行防止に取り組み団体が安心・安全なまちの推進のために実施。のぼり旗や横断幕を持ち、歩行者に「暴力追放」や「社会を明るくする運動」などと書かれた啓発物品を手渡しました。



啓発物品を手渡す参加者



平和への思いを後世に

相川中学校で戦争体験講話を実施

6月、語り部による戦争体験講話で全校生徒271人が平和の重要性を学びました。講話は、友好都市の沖縄県糸満市で戦争体験を若い世代に伝えていく久保田曉さん（78）を招いて実施。戦時中の写真を使いながら、戦争経験者から聞いた当時の人々の様子を伝えました。



妻田小学校でも講話を実施

みんなで考える脱炭素の暮らし

「あつぎ気候市民会議」が始動

脱炭素社会に向けて市民主体で話し合う「あつぎ気候市民会議」を厚木シティプラザで開催しました。10〜70歳代の市民47人と傍聴者23人が参加。専門家による脱炭素に関する講義を受けた後、意見を交わしました。

会議は、市民協働提案事業として「あつぎ市民発電所」と市が実施。参加した宮田晃さん（52・妻田西）は「物流による排気ガスが話題になっているので、環境問題を学ぶため参加した。専門家の話やたくさんの方の意見が聞け、改めて危機感を持った」と真剣な表情を見せました。今後、会議や意見交換などを重ね「脱炭素市民アクションプラン」をまとめていきます。



活発に意見を交わす参加者

第5回 みんなで目指そう カーボンニュートラル

カーボンニュートラル（CN）とは、地球温暖化の原因である温室効果ガスの排出を減らし、植林や森林管理などによる吸収量を増やすことで、実質ゼロを目指す取り組みです。連載では、今日から挑戦できる取り組みを紹介します。

今月の挑戦 涼しさをシェアしよう



あつぎ郷土博物館、図書館などでは、涼しく学べる

暑い夏は熱中症予防のため、エアコンをつけて家で過ごす時間が長くなります。一部屋に家族が集まれば涼しさをシェアできて省エネにつながります。

公共施設や商業施設などに出掛ければもっと多くの人と涼しさをシェアでき、省エネ効果も高まります。

楽しみながら省エネにチャレンジしてみませんか。

CNプラットフォームでは、シェアリングの情報をより詳しく掲載しています。

環境政策課 ☎225-2749



6月から、自治会長の皆さんに市の政策をお伝えしながら地域の課題などを語り合う、タウンミーティングが始まっています。8月末まで市内15地区の公民館を巡り、約200人の皆さんと、子育て支援をはじめ、教育、福祉、観光・農業振興、防災などをテーマに話し合います。

各地を回る中で、私が改めて感じているのは、皆さんそれぞれに強い地域への愛情をお持ちだということ。自治会加入率の低下、学区再



自治会長に自ら施策を説明

と共に向き合っていくところが、厚木をより魅力的なまちに磨き上げていくと私は信じています。

タウンミーティングは今後、子育て世代や市内企業で働く方々など、幅広い層と実施していきます。市長に就任してから、自治会、スポーツ、文化芸術など、さまざまなコミュニティの皆さんを訪ね、生の声を聴く機会を頂いています。皆さんから受け取った「あつぎ愛」を活気に、誰もが誇れるまちをつくっていきます。

編への思いなど、地区ごとに抱えている課題はあります。時には厳しい意見を頂くこともありますが、愛の裏返し」と言うように、地域、そして厚木を大切に思うからこそ言葉だと受け止めていきます。こうした課題一つ一つに対し、丁寧に皆さん